

令和4年度 自己評価・学校関係者評価に向けての報告

令和5年3月29日
学) 東村山町田学園 久米川幼稚園

1 本園の教育目標

- ・明るく元気なこども
- ・考えて行動するこども
- ・思いやりのあるこども

2 本年度重点的に取り組む目標・計画

- ・幼児理解を深め、教育の質の向上を図る為に、園内研修および外部講師による研修を充実する。
- ・幼稚園が、地域の中の一員であることを意識した園経営を図る。
- ・人工芝生園庭を有効に活用し、遊びの充実を図る。

3 評価項目の達成及び取り組みの状況

	評価目標	評価	取り組み状況
1	教育の質向上の為に、研修を充実する。	A	・「保楽会」という研修会を立ち上げ、経験年数5年以下の教員を中心とした園内研修を定期的に行った。年度末には、「幼児の主体性」を観点とした研究発表会を園内で実施し、全職員の学びとした。 ・アンガーマネジメントについて、外部講師による研修を受け感情のコントロール等について学び、より良い幼児との関わり方について再確認した。
2	地域を意識した園経営を図る。	A	・室内に子育て広場を設置したり、園庭開放を行うことで、地域の未就園親子に安心・安全な遊びの場を提供してきた。 ・登下校の児童に積極的に挨拶や声かけをし見守りを行うことで、園児だけでなく地域全体の子どもに目を向けていく姿勢を強化した。 ・東村山市内での行事や様々な取り組みについて、職員の認識を深め、できる限りの参加や協力を行った。
3	人工芝生園庭での遊びの充実を図る。	A	・幼児の遊びの導線を考え、サッカーゴールの位置を変えたり様々な長さのラインテープを活用しコートを作るなどして、遊びを充実させた。 ・クッション性がある人工芝生の特性を生かし、思う存分走り回ったり、時には寝転がったり座って会話を楽しんだり、昼食を食べるなど、様々な取り組みを行った。

○評価 (A・・・十分に成果があった B・・・成果があった C・・・少しは成果があった D・・・成果がなかった)

4 総合的な評価結果

評価	理由
A	地域の情報や園庭を含む園内の遊びの場を考えてきたことで、周囲に目を向け保育に向かう姿勢が共有された。また、園内研修を通して、自ら考え実践し発表するという経験を重ね、幼児理解が深まり、各自の保育姿勢が高まるなど、評価目標は概ね達成できた。

○評価 (A・・・十分に成果があった B・・・成果があった C・・・少しは成果があった D・・・成果がなかった)

5 今後取り組む課題

	課題	具体的な取り組み方法
1	園内研修「保楽会」の充実	2年目を迎える「保楽会」の充実を図り、若手職員の教育者としての自覚と資質を高めていく。また、短期・長期のPDCAサイクル(Plan計画・Do実行・Check評価・Action改善)により保育の振り返りを行い、より質の高い幼児教育を目指していく。
2	自然を生かした保育の実践	植物や野菜、小麦の栽培・収穫だけでなく、自然全般を意識し、季節を感じたり、雲の動きや雪、強風などの現象を意識した保育を実践していく。
3	SDGs 目標ゴール7・12に貢献するための取り組みを強化	電気管理システムからの可視化により、幼児自らが節電の大切さを意識できるようにしていく(ゴール7)。また、食育を通して、給食での残食が減るようにしたり、リサイクル・リユースを活用した遊びをしたりして充実していく(ゴール12)。

6 学校関係者評価委員会の評価

- ・園内研修の充実が、幼児への保育に生かされ、教員の質を高めていることがよくわかる。
- ・今後の課題としているSDGsの取り組みは、漠然となりがちであるが、焦点を当て、身近なところから意識して取り組もうとすることは大切であり、期待している。